

北海道の印刷

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

第704号 [Website] <http://www.print.or.jp>
[E-mail] info@print.or.jp

1

2015

平成27年

1月1日発行

謹賀新年

INDEX

年頭あいさつ	3~6
全印工連フォーラム	7・8
『印刷道』実践セミナー案内	9
業界のうごき	9
平成27年紙上新年名刺交歓	10~15
平成27年新年交礼会日程	15
page2015案内	15

[表紙] 雪原から望む日の出(網走郡大空町)

北海道印刷工業組合

〒064-0808 札幌市中央区南8条西6丁目 TEL.011-562-6070/FAX.011-562-6072



北海道印刷工業組合
理事長

板倉 清

明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、ご壮健で新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年中は、組合運営ならびに事業推進に格別のご協力ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、4月の消費税率引上げ、11月の一昨年に続く電気料金再値上げ、師走の衆議院議員選挙など、厳しく慌ただしい年でした。

道内印刷業界を取り巻く環境は、政府の経済政策の恩恵が実感できなく、人口減少などによる社会環境の変化、需要構造の変化によるペーパーメディアの流出、業際化など、これまで経験したことのない大きな変革への対応が迫られました。

昨年は、第30回北海道情報・印刷文化典札幌大会を、「新たに見つけようソリューション・プロバイダーへの道」のテーマの下、2014北海道情報・印刷産業展と初めてコラボレーションして、札幌支部の主管で開催し、札幌支部組合員の皆さまはもとより全道各地から参加された多くの組合員と関連業界の皆さまの協力により有意義に盛会裡に終了することができました。

また、北海道電力の一昨年に続く電気料金の再値上げに対して、北海道印刷関連業協議会として、北海道電力および経済産業省・北海道に、「電気料金の再値上げの回避もしくは抑制」、「電力の安定供給」の要望を行い、大同団結して行動する組織の力を改めて痛感しました。

本年、北海道印刷工業組合は、これまで培ってきた事業の実績と成果を踏まえ、全印工連などと連携を図り、各種事業を積極的に展開し、組合員企業の一層の繁栄に資して参ります。

1月末に、印刷業の指南書である「『印刷道』～ソリューション・プロバイダーへの深化」を理解し、それぞれの企業の実情に則した課題を抽出し、実践に繋げる計画書を策定する「『印刷道』実践セミナー」を開催します。是非、参加いただき持続可能な成長を果たし、未来を創る印刷企業へ進化する指針を見出していきたいと思います。

また、例年9月初旬に開催し本年度で23回目となる「北海道情報・印刷産業展」は、IGAS2015との関係から本年に限り、会期を6月11日(木)・12日(金)・13日(土)の3日間で開催します。「2015北海道情報・印刷産業展」は、道内印刷業の将来を展望し、企業経営の価値を見出し、クロスメディアの展開に必要な印刷関連資機材・情報機器の選択、情報の交流、ソリューションビジネスの構築などへの要望に十分に答えられるものと思います。是非、多数の方々の交流をお願いしたいと思います。

私たちは、もしかしたら「迷える子羊」かも知れません。行先を見つけるには群れることも必要です。組合はその機能を備えています。組合事業に積極的に参加し、活発な活動を行い、大いに活用いただきたいと思ひます。

最後になりましたが、関係諸官庁、各機関・団体をはじめ関連業界ならびに組合員の皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。新しい年が皆さまにとりましてより佳い年となりますようご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



経済産業省
北海道経済産業局長

秋庭英人

平成27年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年の我が国経済を振り返ると、「アベノミクス三本の矢」の経済政策により、雇用や企業収益を中心に、経済の好循環が生まれ始めました。しかし、地域の中小・小規模事業者は、未だ厳しい経営環境にあり、景気回復の実感は限定的といえます。北海道経済においても、外国人観光客増加に支えられて好調な観光や雇用状況の改善など持ち直しの動きがあるものの、一方で最近の個人消費の動きに弱さが見られるなど、緩やかな景気回復基調の中、弱い動きが広がっています。新年を迎えるにあたり、景気回復を確実なものとし、今後の人口減少と高齢化進展という課題の克服や北海道経済の自立的・持続的発展のため、本年は、地方創生への取組を始め、北海道の戦略産業への支援を更に強化してまいります。

まず、「食」「観光」関連分野については、アジア・中東等新興国の拡大する需要を取り込むため、一次産品・加工食品の輸出拡大に向けた支援を強化してまいります。併せて、一次産品由来の機能性素材を活かした食の付加価値を向上させる取組や地域一体となって地域資源を地域ブランドとして磨き上げていく取組を支援してまいります。さらに、「食」「観光」と関連するものづくり産業については、生産性向上や新たな付加価値を生み出す技術開発・産学連携推進等の支援を行ってまいります。また、年間100万人を突破している訪日外国人来道者数を更に増やしていくため、ソフト、ハード、PR面での環境整備に対して支援を行ってまいります。併せて、人口減少と高齢化進展という地域の課題に対応し、健康寿命の延伸に寄与するため、「食」「観光」分野の強みを活かした「医・農商工連携」等、新たなヘルスケアサービス産業創出への支援を行ってまいります。これにより、地域コミュニティの創出や健康サービスの充実等による地域の持続的発展を図ってまいります。

次に、道内企業の大多数を占める中堅・中小・小規模事業者の活力維持・向上のための支援も行っています。革新的な設備投資やサービスの開発支援を行うとともに、小規模企業支援法に基づき、小規模事業者向けの支援を充実してまいります。また、開・廃業率10%の政府目標に向け、創業促進を進めてまいります。さらに、地域の暮らしを支える商店街・中心市街地の活性化・買い物弱者対策等まちづくりを支援するとともに、中小・小規模事業者が不当に不利益を被ることのないよう、消費税転嫁拒否の監視や下請取引適正化を図ってまいります。

経済成長を支え、道民生活の安全・安心を確保するための取組も着実に進めてまいります。現在も冬季の省エネルギー・節電へご協力いただいているところですが、電力価格の上昇や灯油価格の高止まりを踏まえ、昨年4月に閣議決定された第四次エネルギー基本計画に基づき、省エネルギー推進の強化を始め、一層エネルギーの低廉かつ安定的な供給確保に取り組んでまいります。また、製品安全対策、悪質商法対策などを通じて消費者利益の増進に努めます。

これらの支援により、地域の雇用と所得が増加し、それらを未来への投資につなげ、北海道産業の「稼ぐ力」が強まっていき、北海道経済が好循環していくことを強く期待しております。当局といたしましては、このような明るい未来を目指し、熱意と行動力のある皆様と一緒に、職員一丸となって「新たなチャレンジ」に精一杯取り組んでまいりたい所存です。

本年が皆様にとって実りの多い飛躍の年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



北海道知事

高橋はるみ

新年明けましておめでとうございます。皆様にとりまして、素晴らしい一年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

平成15年に知事に就任して以来、本道を取り巻く情勢が大きく変化する中、私は、いかなる課題にも、道民の皆様そして北海道のことを第一に考え、道政運営に全力を尽くしてまいりました。道民の皆様には深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、我が国では局地的な大雨や火山噴火・地震により甚大な被害がもたらされ、道内でも豪雨によって経済や暮らしが影響を受け、大切な命が奪われる事態にもなりました。

また、国政では、経済の再生と財政の再建が大きな課題となり、道内においても、消費税率の引上げに加えて電気料金の再値上げが地域経済に影響を与えました。

こうした中、道では、北海道米に対する評価の一層の高まり、道産食品の海外輸出やアジアを中心とする外国人来道者の順調な推移など本道経済を支える食・観光を巡る明るい動きを追い風に、その更なる振興に向けて、各地の魅力を世界に発信し、海外の成長力を取り込むためのクールHOKKAIDOの取組など、新たな展開を図ってきたところであり、暮らしの面でも、地域枠医師の一期生が誕生した医師確保の対策に加え、いじめの防止やエゾシカ対策など、豊かさや安心を実感できる北海道の実現に全力を傾けた一年でありました。

本道にとって将来に先送りすることのできない人口減少問題については、現在、様々な観点からの検討を進めており、今後、市町村をはじめ道民の皆様と認識の共有を図り、少子化対策、産業振興や雇用創出、生活・定住環境づくりなどの施策を総合的・効果的に推進することとしています。

そして、地域をより活気に満ちたものにするため、産業や暮らしなど幅広い分野で大きな役割を果たしている女性が更に活躍できる環境づくりも求められており、「北の輝く女性応援会議」を中心に全道的なネットワークの構築などに取り組んでいくことも重要な課題です。

さらに、本道と、東北や北関東などとの交流を飛躍的に発展させる好機となる北海道新幹線は、既に本道から九州までレールがつながり試験走行も始まるなど、開業まで実質一年に迫ってまいりました。積極的な情報発信をはじめ魅力ある観光地づくりや交通アクセスの充実などに取り組み、開業効果を全道に波及させ、北海道の活性化に結びつけていかなければなりません。

私としては、本道の現在と将来の両方を見据えながら、これまでの国内外の交流を礎に多くの方々に惹きつけ、道民の皆様が暮らし続けたいと思える北海道づくりに向けて、全力で取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして、希望に満ちた年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



全日本印刷工業組合連合会
会長

島村博之

明けましておめでとうございます。

旧年中は、当連合会に格別のご支援とご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げますとともに、本年も一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年は17年ぶりに消費税率の引き上げが行われ、上半期は経済の回復が期待されましたが、11月に発表された2期連続マイナスGDPの影響もあり、年の終盤を迎えた中、衆議院の解散、総選挙が行われ、確かな経済回復の足音を聞くことが出来ないままの年越しとなりました。

このような中、全印工連では、成長戦略の柱である「社会の期待に的確に応え、社会から必要不可欠とされる企業（ソリューション・プロバイダー）への深化」を目指して、事業領域拡大に必要となる新しい積算体系の研究、男女共同参画社会の形成ならびに優秀な人材確保のための女性活躍推進事業の立案、IT環境の整備促進による作業効率向上と利益改善を目指した特別ライセンスプログラム事業の推進、そして、自らの経営姿勢を見直し、地域社会から信用され、地域社会に貢献し得る企業になるためのCSRへの取り組みなど、将来に向けた様々な準備を着々と進めてまいりました。

成長戦略にも記しましたが、私たちは、「Insatsu」が一人ひとりの思いを大切に扱う「当事者のメディア」として、社会を動かす推進役であるという自覚を持ち、誠実に時代の要請に応え、未来を自らの手で創造して行かなければなりません。また同時に、将来の印刷産業界は、多くの人々の夢と希望を叶える産業として、私たち印刷産業人にとっても、自信と誇りに満ちた場所でなければなりません。さまざまな「情報」をこれまで長く養ってきた「技術」と研ぎ澄まされた「感性」で加工し、「社会を彩り、潤す」役割が、今後はこれまで以上に強く求められることになるでしょう。

本年も、全印工連におきましては、夢のある未来の業界づくりの実現に向け、全国の印刷工業組合、そして組合員企業の1社1社と手を携えながら、力強く着実な歩みを進めて行く所存です。

結びに、2015年が皆様にとって明るく希望に満ちた素晴らしい一年となりますよう心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

未来を創るCSR ～人を育て、組織を動かすリーダーシップ～

全印工連フォーラム開催

全印工連フォーラムが、10月25日午前9時30分から、ウェスティン都ホテル京都で、「未来を創るCSR～人を育て、組織を動かすリーダーシップ～」をテーマに開催され、基調講演とパネルディスカッションが行われた。

最 初に、全印工連CSR推進専門委員会の池田幸寛委員長が、「CSRは中小企業の経営品質をいかに高めていくかである。経営品質を高める活動として多くの企業で取り入れてもらいたい」と主催者を代表してあいさつした。



鬼澤慎人 氏

基調講演は、経営品質の普及・支援に取り組んでいる㈱ヤマオコーポレーション代表取締役の鬼澤慎人氏が講師を務めた。

鬼澤氏は、最初にリーダーシップは教えるものではなく、皆持っているのであるが、実行していないと前置きし、「質の高い経営」、「変化に対応する経営者の心得」、「人の動かし方」などを解説した。

従来の企業価値は、売上高や従業員数などの量的指標が評価に繋がっていたが、規模ばかり大きい企業はいずれ内部の不正行為が明るみ出て社会的な批判を免れない状況になっている。企業は経営の質にもっと目を向けるべきであり、経営品質はCSRに近い関係があるとした。

経営の質を高めるためという意味は、単純に対外的評価を重視して動くことではなく、適正な利益を確

保し、問題意識を持ち、自発的に動ける社員を育て、地域を支える企業として評価されることが真の企業価値に繋がるとした。

経営者は世の中の変化を知り、素早く対応し、変化を予測し、準備し、変化に強い体質にし、最後は自ら変化を起こすことで企業を成長させ、承継していくこととし、これらは日本に昔から根付くものであり、日本には千年以上続いている企業がたくさんある。ただし、伝統はお客様へ最高のモノを提供するため革新の連続であると指摘した。

海外では日本の長寿企業にリーダーシップやマネージメントを学んでいる事例もある。短期的な結果を求め、行き過ぎた成果主義で恐怖（リストラ）を与えても、失敗を恐れ責任逃れをする社員が増えるばかりである。外部的動機付けと内部的動機付けが必要になると説いた。

パネルディスカッションは、鬼澤氏がコーディネータ、佐久間信幸氏（㈱日進堂印刷所代表取締役・福島県）、鳥原久資氏（㈱マルワ代表取締役・愛知県）、瀧麻由香氏（㈱太陽堂専務取締役・京都府）、安平健一氏（㈱ダイム代表取締役・大阪府）の4人がパネリストを務めて行われた。

各社のCSR活動の目的・手法について紹介された。



佐久間信幸 氏

(株)日進堂印刷所は、震災の教訓を印刷物によって伝えることはできないかと製作した「防災手帳」は、単年度だけの発行であったが、収録したガイドラインが現在は各地の防災の手引きとして使われている。



鳥原久資 氏

(株)マルワは、カーボンオフセットのクレジット取引で、愛知県内のバラ農家と新たな関係が生まれたことから、「マルワで印刷するとバラが咲く」のキャッチコピーで印刷物を提案している。早くからCSRに取り組んできたことで新しい企業との取り引きも生まれている。全社員の顔を掲載したCSRレポートを発行している。



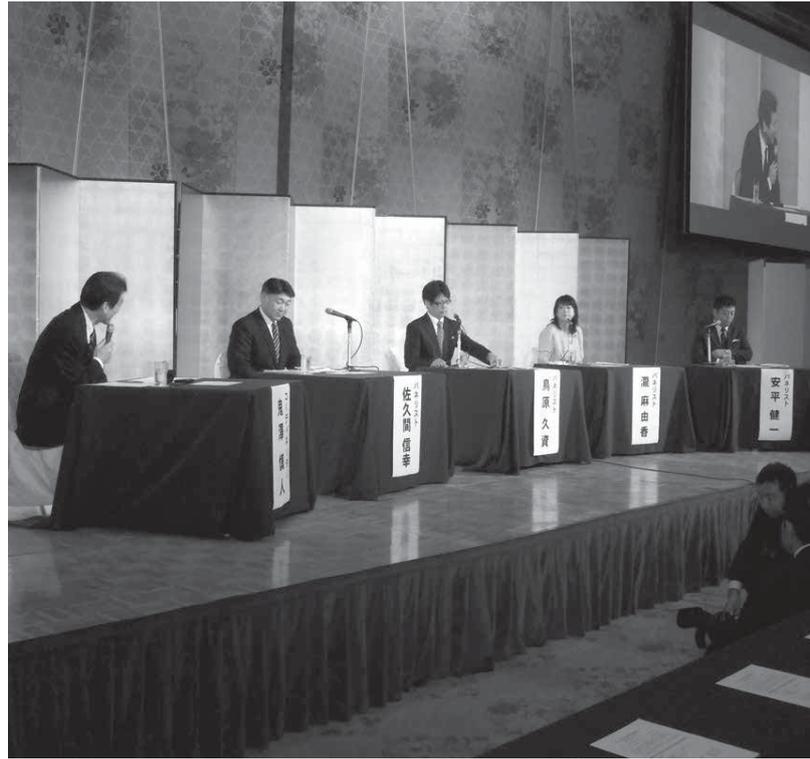
瀧 麻由香 氏

(株)太陽堂は、瀧専務自身が母親であり、自身も乳がんを患ったことから、ママ友やがん患者支援ネットワークとの繋がりが深い。ママ友向けにはフリーペーパー「ママとも新聞」の発行、ママ名刺・親子名刺の企画、乳がんの予防、治療にサロンの開催など場の提供を行っている。



安平健一 氏

(株)ダイムは、CSRはまさに経営戦略の一部であるとし、顧客や従業員に対して提供できる価値の最大化には、製品品質のみならず財務や労働環境、コンプライアンスを重視する必要があり、地域との共生も重要な



テーマになる。目的を達成するために講じてきた手段が、CSRという言葉に落とし込まれていった。

終わりに、江森克治CSR推進専門委員会副委員長が、「CSRは全印工連で浸透しはじめ、業界を挙げて啓発しているのは珍しく、他の業界と差別化できているような気がする。CSRは経営戦略であり、社員が行きたくなるような会社にして大いに儲け、社会に還元することを全印工連ではCSRという共通認識にした。社員が行きたいという会社を増やすと日本は良くなる」と結んだ。

「『印刷道』実践セミナー」のご案内

～それぞれの企業に則した印刷道の展開を目指して～

全 印工連は、昨年、印刷産業の今後を予測し、ソリューション・プロバイダーとして持続可能な成長を果たして、未来を創る印刷産業へと進化を遂げるための指南書として「『印刷道』～ソリューション・プロバイダーへの深化」を発刊した。

同書には、印刷業が進化し得る戦略の方向性を示した「ソリューション・プロバイダーの6類型」が収録

されており、各社の強みを活かした戦略を立てることが可能となっている。

そこで、ソリューション・プロバイダーの6類型の理解を深め、自社に適合する戦略を選択し、実践に繋げる計画書を策定する「『印刷道』実践セミナー」を下記により開催する。

記

1. 日 時 平成27年1月31日(土) 13:30～16:30
2. 会 場 ガーデンシティ札幌駅前（札幌市中央区北2条西2丁目 TKP札幌ビル 電話011-252-3165）
3. 内 容 「印刷道」およびソリューション・プロバイダーの意義や目的を理解したうえで、それぞれの企業の実情に則した課題を抽出し、実践に繋げる計画書の策定を行うワークショップを実施する。
4. 講 師 株式会社ビジネスコミュニケーション研究所 代表取締役 田中信一 氏
5. 受 講 料 5,000円/1人
6. 申込期日 平成27年1月15日(木)

業 界 の う ご き

▶(株)北海道機関紙印刷所が「新社屋落成・移転祝賀会」を開催

株式会社北海道機関紙印刷所（郡司馨社長／札幌市手稲区曙2条3丁目2番34号）は、11月21日 午後6時から、札幌市北区の札幌アспенホテルで、約150人が出席して、「新社屋建設・移転祝賀会」を開催した。

郡司社長は、あいさつのなかで、「新社屋を、新たな拠点として、新たな出発を目指す」と抱負を語った。



平成27年新年交礼会日程

名称・支部	日時	時間	会場
北海道印刷関連業協議会	1月 9日 金	17:00	札幌グランドホテル
十勝支部	1月 14日 木	18:00	ホテル日航ノースランド帯広
函館支部	1月 16日 金	18:00	割烹旅館若松
小樽支部	1月 23日 金	18:00	ニュー三幸
オホーツク支部	1月 26日 月	18:00	北見ピアソンホテル
旭川支部	1月 30日 金	17:00	旭川グランドホテル
札幌支部合同分区会	2月 13日 金	18:00	札幌東急イン

「page2015」のご案内

page2015が、公益社団法人日本印刷技術協会の主催で、「変わるニーズ。変わるビジネス。」をテーマに開催される。

page展は、1998年に印刷・メディア業界のコンベンションとして開催され、今回で28回目となる。page2015は、マスからの脱却を軸に、生産技術だけにとどまらない新たな事業展開の方向性を印刷業界に提案する。

イベント会場では、印刷業界の明日への指針を示すカンファレンスや、今日の答えを示すセミナー、企業

および団体の技術・商品・ソリューションを紹介する展示会を併催し、印刷業界の発展を促す。

会期／平成27年2月4日 木～6日 金
10:00～17:00

会場／サンシャインコンベンションセンターTOKYO
(東京都豊島区東池袋3-1)